

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 11 月 29 日 (2007.11.29)

【公開番号】特開 2006-136564 (P2006-136564A)

【公開日】平成 18 年 6 月 1 日 (2006.6.1)

【年通号数】公開・登録公報 2006-021

【出願番号】特願 2004-329678 (P2004-329678)

【国際特許分類】

D 0 5 B 57/02 (2006.01)

D 0 5 B 1/10 (2006.01)

【F I】

D 0 5 B 57/02

D 0 5 B 1/10 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 10 月 12 日 (2007.10.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

複数針 2 重環縫いマシンは、生地を送りの方向と略直交する面内に並設され、前記生地を貫通して上下動する複数本の針と、これらの針の並設方向に前記生地の下面に沿って進退動作するルーパとを備えている。このマシンは、複数本の針の下動により繰り出されて上動への転換時に生地の下側に形成される針系の系環列をルーパの進出により捉え、生地の送りに伴って引き出す一方、前記ルーパの進出により繰り出されるルーパ系を、該ルーパの後側に下動する針により捉える動作を繰り返すことにより 2 重環の縫目を形成する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 9】

第 1 のルーパ系 21 は、図の左側から右側に向けて進出動作し、右側から左側に向けて退入動作するルーパ（図示せず）により、3 つの系環列 11, 11, 11 の並設域の全幅に亘って系繰りされ、全ての系環列 11, 11, 11 と図示の如く絡み合わされて第 1 の 2 重環縫い部を構成している。一方、第 2 のルーパ系 22 は、3 つの系環列 11, 11, 11 のうち、ルーパの進出側を除く 2 つの系環列 11, 11 の並設域の幅内にて系繰りされ、これらと図示の如く絡み合わされて第 2 の 2 重環縫い部を構成している。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 8】

以上の如く構成されたルーパ 2 は、マシン本体内部の主軸からの伝動によるルーパ棒 5 の進退動作に応じて、針 1, 1, 1 の下動と共に右退し、針 1, 1, 1 の上動と共に左進する。図 1 (a) は、ルーパ 2 が左進端にある状態を示している。このとき針 1, 1, 1

は、上死点の近傍にあり、ループ２は、左進の過程において捕捉した針糸１０，１０，１０のループを保持している。左進端へ到達したループ２は、図１（ａ）中に矢符により示す如く前方への所定の移動を伴って右退を開始し、該ループ２に保持された針糸１０，１０，１０は、この間に図中に白抜矢符により示す如く生地Ｗに加えられる送りにより、相対的に前方に引き出される。